

設 立 趣 旨 書

大牟田市を中心とし福岡・熊本両県に広がる有明地域は、石炭とその関連産業とともに大きく発展し、世界文化遺産にも認定されるなど高く評価されてきました。一方で、人口減少や地域経済の変化の中、地方都市としての新たな魅力づくりが求められています。そのような時代だからこそ、文化の持つ力が重要になると私たちは考えます。芸術や文化は、人の心を豊かにし、地域に誇りを生み、人と人を結びつけ、子どもたちの感性や創造力を育む、「地域の品格」を形成するものです。

このような折、大牟田市出身の洋画家・大津英敏氏より、貴重な作品の数々を大牟田市にご寄贈いただけるという、大変意義深いお申し出をいただきました。大津氏は郷土の先達画家に触発されて画家の道を志し、東京芸術大学等で研鑽を積み、安井賞、宮本三郎記念賞、東郷青児美術館大賞、日本芸術院賞を受賞して日本芸術院会員に推挙された、日本洋画壇を代表する画家です。郷里大牟田への思いは深く、市内の学校での絵画指導など青少年の育成にも力を尽くしてこられました。

このお申し出を受け、私たちは「大津英敏美術館」構想の実現に向けた委員会の立ち上げをきっかけに、単なる建物を整備する事業だけでなく、大牟田・有明地域の未来にどのような文化を残し、次の世代に何を伝えていくのかいう、地域の文化芸術振興に関わる事業にも取り組んでいくべきだと考えています。

「見るだけの美術館」ではなく「参加する美術館」として、子どもたちが本物の芸術に触れる機会をつくり、学校教育と連携した感性教育の場とし、地域の文化団体や芸術家と協働する市民文化活動の拠点とし、大牟田を訪れる人々に新たな魅力を発信する文化観光にもつなげていく、そのような多面的な役割を担う施設として育てていく必要があると考えます。

しかしながら、事業で最も大切なのは「継続性」です。建設時には注目を集めても、長期的な運営が困難となる例は全国にも少なくありません。だからこそ、この構想は行政だけに依存するものでも、特定の個人や団体だけで支えるものでもなく、市民全体で育てる仕組みとして実現していかなければなりません。地元の文化協会、教育関係者、経済界、行政、市民ボランティアなど多くの方々が関わる「地域が支える文化拠点」として、寄付制度や賛助会員制度なども含めた持続可能な運営基盤を築いてまいります。

そこで私たちは、大牟田市・有明地域の文化芸術の振興、及びこの美術館の維持・管理・運営を継続的に行之、地域社会の発展に寄与するため、特定非営利活動法人（NPO 法人）「大牟田ありあけ文化芸術拠点 233」を設立いたします。

「この地域に文化を残したい」という志は人を動かし、地域を動かし、時代を超えて受け継がれていくものです。この美術館が大牟田・有明地域の未来を照らす新たな文化の灯となり、その灯を市民一人ひとりの力で長く守り育てていくため、私たちはここに、その担い手となる法人の設立を発意いたします。

令和 8 年 8 月 1 7 日

特定非営利活動法人大牟田ありあけ文化芸術拠点 233

設立代表者 横倉 義武